

# 犬猫の皮膚病に 関わる 栄養素



湘南獣医師会 塩谷 香織

## 皮膚疾患を生じる こともある、 栄養素の過不足

皮膚は体の表面を覆う最大の臓器です。内臓を保護し、体温を調節し、体の水分喪失を防ぐなど重要な役割を担っています。また皮膚は絶え間なく代謝を続ける臓器のため、多くの栄養素が必要となります。

今回は、皮膚疾患を生じることもある、栄養素の過不足についてご紹介いたします。

### タンパク質

フードに含まれるタンパク質(アミノ酸)は、体を作るのに大切な栄養素です。人と違い犬猫ではアルギニンが、猫はタウリンも必須アミノ酸となります。アミノ酸には保水機能があり、皮膚のバリア機能にも役立っています。正常な皮膚のターンオーバー(皮膚の細胞が生まれ変わるサイクル)は約22日ですが、様々な皮膚炎でターンオーバーが短縮すると皮膚の基底層(新しい細胞が生まれる場所)で栄養が不足してしまいます。

### 不飽和脂肪酸

不飽和脂肪酸のうち、オメガ6脂肪酸(リノール酸)やオメガ3脂肪酸(αリノレン酸)は必須脂肪酸です。人や犬、猫はオメガ6とオメガ3脂肪酸を合成することができず、口からの摂取が必要です。さらに猫ではアラキドン酸も補給する必要があります。必須脂肪酸の不足は、皮膚のバリア機能の低下の原因となります。またこれらの中には炎症や免疫に関与しているものもあります。不飽和脂肪酸の効果的な使用方法についてはまだ十分解明されていませんが、皮膚疾患用の市販食やサプリメントを購入する場合は、オメガ6とオメガ3の含有量には注目するべきでしょう。

### ビタミンA

欠乏すると皮膚のターンオーバーの異常、鱗屑(フケ)を伴う脱毛症、被毛粗剛などを起こします。通常の総合栄養食には十分なビタミンA量が含まれていますが、偏ったフードの場合は欠乏することがあります。

### 亜鉛

急速に成長する子犬(特に大型犬)は適切なフードを選ばないと亜鉛欠乏になることがあります。発症の多くは必要な亜鉛含有量を満たさないフードや、亜鉛の吸収を阻害する成分(カルシウム、リン、マグネシウム)が過剰に含まれたフードやサプリメントによって起こります。ターンオーバーの異常(フケ)、脱毛、肉球や鼻鏡の角化亢進や深い亀裂など起こすことがあります。

### おまけのお話し!

質の悪いタンパク質、少ない必須脂肪酸、亜鉛の不足、穀類の割合が高い(穀物比重が高い)フードは亜鉛の吸収を阻害するフィチン酸塩とカルシウムの含有量が高くなる(など、低品質なフードでは亜鉛欠乏と同じような皮膚症状を起こすことがあります。

みなさんが毎日使っているフードやサプリメントに関心を持つ機会になれば幸いです。

(かまくら犬と猫の病院)

